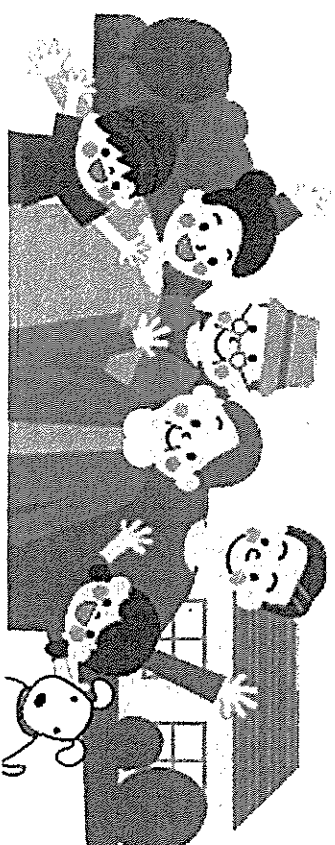


榑引地域まちづくり未来事業計画(案)

平成30年12月現在



【榑引庁舎素案】

黒川地域まちづくり未来事業総括表(事業A編)

整理NO	地域振興計画の位置づけ	担当課	事業名	事業概要
1	(1) 果樹産地の活性化と安全安心な地域づくり	産業建設課	フルーツランド(仮称)プロジェクト事業【継続・拡充】	くびきフルーツの里プロジェクト推進に向け、産直売り場周辺約15haをフルーツランドとして再整備し、合わせて果樹の6次化プロジェクト戦略と担い手育成により産地の拡大を図る
2	(2) 農業自然体験に資した都市農村交流の推進	産業建設課	NATURE LAND (自然体験学校)構想	たらのぎ代キヤーム、ほのかたらのぎ代への機能を再編し、対象を家族・学校・団体向けに特化した『通年型自然体験施設』として再整備を図る
3	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	産業建設課	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	赤川かわまちづくり計画(432~437)に位置づけ、柳引赤川エリアにおいて橋梁、管理道路の更新や鳥獣の被害を、レクリエーション、遊具等の整備により住民から親しまれる河畔整備を行うもの
4	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	産業建設課	柳引地域の情報発信(柳引PR事業)	SNS (facebook/twitter) , YOUTUBEなどを活用し、柳引の日常風景、観光情報を発信
5	(3) 地域を越えて連携する広域観光圏の推進	産業建設課	南部地域広域観光拠点と交通基盤整備	市南部地区(柳引、朝日、黄金等)との広域観光連携を推進するため、フルーツランド(仮称)を拠点に観光商品の開発提供、エージェンメントへの売り込み、観光客の2次交通輸送システムの開発等実施
6	(4) 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進	産業建設課	柳引歴史観光まちづくり事業(歴史と観光のまちづくり)	連続建造物にゆかりし柳引地域の産業として栄えてきた柳引織りについて「連続建造物の歴史・工場の再整備と、宗廟酒造の織物産業の完結を図る
7	(2) 農業自然体験に資した都市農村交流の推進	産業建設課	柳市農村交流促進事業【継続・拡充】	柳浜市青木小学校や鎌倉女子大学との交流を積極的とし、空き家活用でのゲストハウスや農家民宿、農業カフェの整備・強化により、交流人口の拡大を図る
8	基本方針(4)、(5)	総務企画課	丸岡経済圏再構築準備事業	駐車場を整備し、マイクログラス等での未訪やイベント開催時の利便性を図る
9	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	「地域の遊び場」整備事業(検討)	地域住民のニーズが高い、子育てにかかると環境整備して安全に遊べる場、休日に親子で楽しめる場を整備する。実現のための検討・協議を進める
10	基本方針(4) 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用	総務企画課	伝統芸能「カーイ」事業	黒川能の映像データ、音データをデジタル化し、起死回生し伝承活動に活用
11	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	柳引地域デジタル導入事業	高齢化社会の進展を見据え交通手段の確保において課題を捉えながら、住民ニーズに沿った新たな公共交通システムの研究と、広域観光の二次交通システムの研究を推進


黒川地域まちづくり未来事業総括表(事業B編)

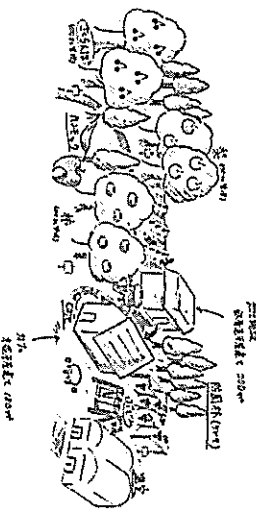
整理NO	地域振興計画の位置づけ	担当課	事業名	事業概要
12	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	柳引地域交通安全の日啓発事業	交通安全の日の日旗を作成、柳引地域全戸に配布し、交通安全啓発運動の交通安全の日(毎月1日)に旗を立てる取り組みを継続促進
13	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	柳引地域コミュニティ活性化事業	集落支援員(兼任職員)1名を配置し、地域コミュニティ(実地研修や伝承型研修)の開催を通じて地域にジョブの策定推進を図るとともに地域コミュニティ同士の協力・連携体制の構築を図る。
14	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	産業建設課	「空にける階段」Information Booth整備事業	郷土出身石造彫刻家「空懸堂」氏の作品、思想を紹介するサロン整備。柳引地域の既存施設内に改修整備し、市内にある作品等を観賞、回遊できる仕組みをつくる
15	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	市民福祉課	柳引地域いきいき健康活動拠点運営業務委託料	長寿介護所併設の地域介護予防活動支援事業に取り組んでいる団体の所属する地区に対し、当該地区の高齢者の健康維持と生きがいづくりにつながる活動の実施と活動拠点の運営について委託するもの。(15地区)
16	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	産業建設課	くびき夏のイベント推進事業【継続】	水越の能と連日開催する「くびき夏祭り」に対する補助金、夏祭りは毎年800名程度の参加で、JA、商工会、工業団地連中は購入等による実行委員会を運営し、水越の能のステージ等を共用し効率を図る
17	基本方針(4)、(5)	総務企画課	黒川能保存伝承交流事業【継続】	保存伝承研修会(講師)開催支援や夏小唄仕舞い指導等の担い手育成、体験用衣装の整備など
18	基本方針(2)、(4)	総務企画課	能楽青年交流事業【継続】	学生、青年層の能楽会館の誘致、地元住民、若手能役者との交流、産業体験、観劇やワークショップなどで能の理解促進を図り、「能楽会館地1」という分野を確立
19	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	くびき若者未来創造事業【継続】	若者組織と希望者を集め、ワークショップ事業、先遣地視察、成果発表会を通じて、まちづくりへの機会や新規イベントの開催を検討
20	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	希少淡水魚保存事業【継続】	くハシヨの種の保存活動を行い、戸舎での展示などを通じて生態系保全や自然環境の保護意識高揚、地域コミュニティの育成を図る
21	(5) コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	総務企画課	花いっぱい運動で環境美化推進事業【継続】	柳引花と緑の会が実施するサリビエの植栽活動を推進する。

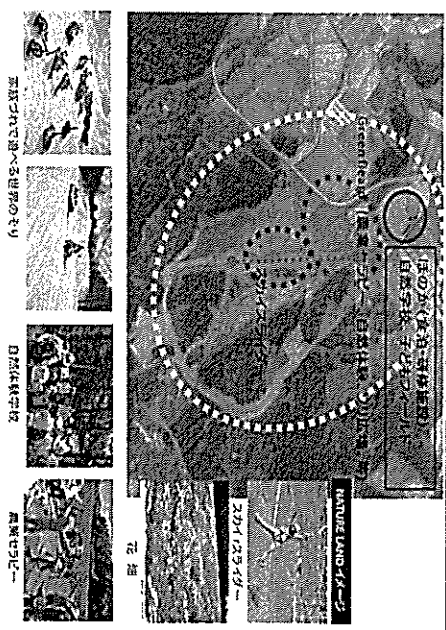
は従来の地域活性化事業(継続事業)

櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.1

担当課 産業建設課

計画（事業）名	櫛引フルーツランド(仮称)構想	
	実施年度	H30～H34
背景・課題・住民ニーズ	事業種別 ハードソフト ・事業補助	
	櫛引地域振興計画での位置づけ	基本方針(1)、(2)、(3)
イメージ図・写真等		
 <p>道の駅「あぐり」周辺 道の駅構想(仮称) (イメージ)</p> <p>産直「あぐり」(民間既設)</p> <p>果樹園</p> <p>情報発信機能(国務院)</p> <p>観光拠点 × 果樹ブランド = 「道の駅」登録</p> <p>ユネスコ創造文化都市のブランド 観光果樹園の振興 XPERIUMA</p> <p>果樹の6次化・ブランド化</p> <p>東京大学ES戦略プログラム(構築) 山形大学農学部(技術協力) Food coordinator (技術協力)</p>		
<p>期待される効果・特記事項</p> <p>(1) 観光果樹園入込者数 (H27) 17,579人 ⇒ (H33) 20,000人</p> <p>(2) 果樹生産 (H28) 293百万円 ⇒ (H33) 350百万円</p> <p>(3) ふるさと返礼品 さくらんぼ (H27) 1,230C ⇒ (H33) 2,400C</p>		
<p>推進体制</p> <p>○検討体制 櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会 + 国・県・市(企画部隊) フルーツの里プロジェクト推進委員会</p> <p>○事業実施主体 (運営体制) 公設民営。民間事業者(同推進協議会(あぐり、果樹農家、観光農園者、観光協会)で検討)+JA庄内たがわ、出羽商工会+行政(国, 県, 市)+アドバイザー(コンサル)</p>		
<p>事業目的</p> <p>『フルーツ王国くしびき』の果樹をテーマとした生産の拡大、6次産業化、ブランド化を図り、また鶴岡市南部地区の広域観光の拠点機能とするため、産直「あぐり」周辺地区をフルーツランド(仮)として拡張整備し、地域活性化に資する</p>		
<p>事業内容</p> <p>フルーツの里ブランド化推進事業の一環として、従前より構想の声があった産直あぐり周辺一体でのフルーツランド、コマージュナル果樹園等の整備を「櫛引地域まちづくり未来事業」として推進する</p> <p>○全体構想計画策定</p> <p>○地域活性化施設(フルーツランド、休憩施設併設)</p> <p>○多機能トイレ改築</p> <p>○コマージュナル観光果樹園の整備</p> <p>○南部広域観光拠点整備(観光商品開発、2次交通運営システム確立等)</p>		



計画（事業）名		NATURE LAND(自然体験学校)構想	
背景・課題・住民ニーズ			
<p>1 櫛代スキー場のナイター施設完備の特性を活かし、市内3スキー場の差別化を図り共有を図る。</p> <p>2 自然体験学校の開催等グリーンシーズンのスキー場の有効利用</p> <p>3 櫛代スキー場、ほのか櫛代の機能を見直し、自然体験メニューを導入しながら、対象を家族、学校、団体向けに特化した通年自然体験施設として運用を見直す。</p>			
事業目的			
<p>山形県と mont-bell の自然協定に参加し、『櫛代スキー場』、『ほのか櫛代』の通年型自然体験施設としての機能見直しと自然体験メニューを導入し、市民の満足度向上と交流人口拡大を図る。</p>			
事業内容			
<p>① 櫛代スキー場の経営改革</p> <p>■ Green season …花畑、交流者農園、自然体験学校、農業セラピー、スカイスライダー（空中滑り台）、大型ゴムブール</p> <p>■ Snow season …フリースキー向け自然体験型スキー場</p> <p>1) 子供向けスキー・ウエアセットの格安レンタル完備（親子が手ぶらで遊べるスキー場。将来的スキー人口拡大）</p> <p>2) SNOWPARK（雪上アトラクション） スネークコースター（1基）、2人乗りソリ（5台）、スノーバイク（5台）</p> <p>3) 送迎バス…(株)フルーツランド2次交通会社が運営するバスで市街地から中高生を週末無料送迎</p> <p>② ほのか櫛代の経営改革</p> <p>・ 山形県と mont bell の自然協定傘下の「自然学校」としての運営 ・ 宿泊機能…週末関連日のみ経営（対象: 潮活、サークル等の団体、自然学校の受講生）</p> <p>（運営主体（案）） くしびぎん（地域若者有志）、NPO 酒田元氣王国、庄内ネイチャーゲーム協会、(株)ON-WIPPS 等への指定管理</p>			
実施年度	H30～H33	事業種別	ハード ソフト 事業補助
櫛引地域振興計画での位置づけ		基本方針（2）	
イメージ図・写真等			
			
期待される効果・特記事項			
<p>(1) スキー場利用者の増加</p> <p>(2) 多種多様なスノーアイテムが揃いワンテミリーからカッツルまで、また、スキーやスノボをやらない（やめた）人達も楽しめ、利用者の増加が期待できる。</p>			
推進体制			
<p>○検討体制 産業建設課 + 国・県</p> <p>○事業実施主体（運営体制）</p> <p>山形県 mont-bell 協定傘下で運営形態は公設民営型 (ex: 庄内ネイチャーゲームの会、NPO 酒田元氣王国、(株)ON-WIPPS 等)</p>			

節引地域まちづくり未来計画 事業 No.3

担当課 産業建設課

計画（事業）名 やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業

背景・課題・住民ニーズ

1. 子どもが、遊べる公園・環境が少ない。
2. 年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。
3. 桜開花時期、やすらぎ公園沿いにぼんぼり設置要望がある。
4. 桜の手入れ不足の声（テングズ病駆除や大枝剪定）
5. 桜の開花時期に必ず馬渡川付近への行き方についての問い合わせがあるが、道路標識が無いため、説明に苦慮する。

事業目的

多くの地域資源が集積する「やすらぎ赤川河畔エリア」を一体的にとらえ適切な管理と活性化を施すことで、交流人口を増やしにぎわいを創出する。また、スポーツ公園付近に遊具の新設、ゆTownの大広間を子どもにも開放する等して、年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。

事業内容

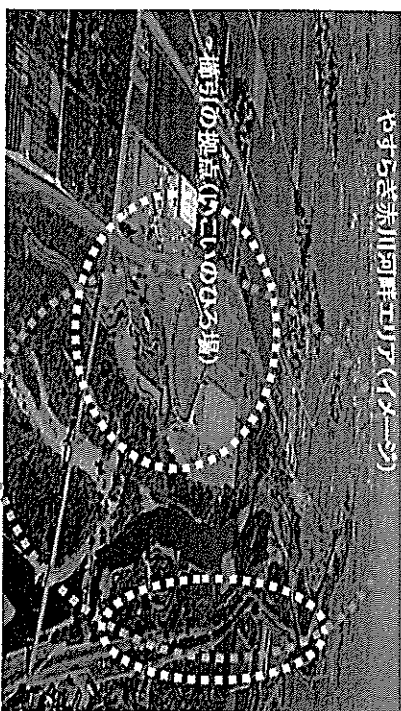
- やすらぎの赤川河畔エリアは住民いこいの場の拠点化
- ① 辺施設との赤川周遊（右岸含む）が出来るレンタルサイクルの配置。
（サイクルポート、スポーツセンター、産直あぐり）。
 - ② 辺エリアの全体案内看板を設置する。施設へのマップの配置。
 - ③ 渡川の桜づつみへのアクセスマン案内看板設置
 - ④ 桜の時期 ぼんぼり設置
 - ⑤ 桜並木の適切な管理 国、地元、市の三者協定による計画的更新、テングズ病駆除・大枝剪定
 - ⑥ 桜の時期にイベント：マラソン、ロードバイク、てくてくウォーキング（河畔1週）⇒同日開催ONEDAY
 - ⑦ ちびっこ広場に遊具設置
 - ⑧ 子供向け屋内遊具（ゆ〜Townまたはスポーツセンターに設置）
 - ⑨ ゆ〜Townの経営改革（※現在、検討中）
- ※上記はH31-35「赤川かわまちづくり計画事業」で実行

実施年度 H31～H35

事業種別 **ハード** ソフト・事業補助

節引地域振興計画での位置づけ 基本方針（3）、（5）

イメージ図・写真等



地区の拠点整備 × 自慢の名所整備 = 地区住民の誇りと元気

期待される効果・特記事項

1. スポーツセンター付近を節引の拠点施設（いこいの広場）として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。
2. 地元市民による管理では行き届かないテングズ病駆除や大枝剪定を行うことで、桜づつみの適切な管理ができる。
3. 当該エリアの周遊を促すことで、節引総合運動公園、鶴岡市グランドゴルフ場、くしびき温泉ゆ〜Town、節引やすらぎ公園、馬渡川の桜づつみ施設の魅力の増進が図られ、リピーターを増加させ交流人口が増大する。

推進体制

○検討体制 レンタル自転車については、体育協会に委託する。（スワホでの支払システムも検討）

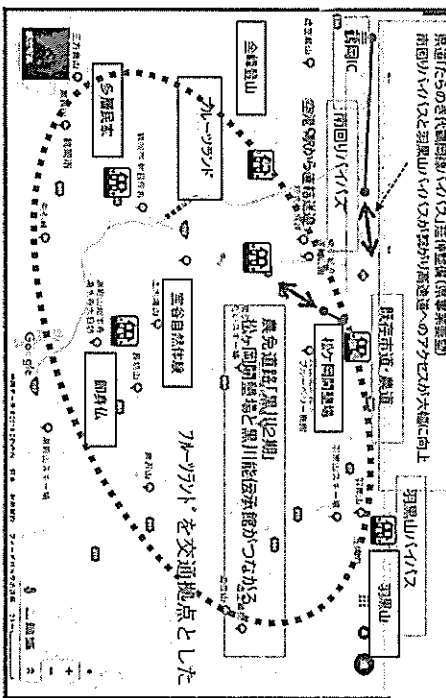
○事業実施主体（運営体制）

『てくてくウォーク』：スポーツ課共催

<p>計画 (事業) 名 櫛引地域の情報発信 (櫛引PR事業)</p>	<p>実施年度 H30～H34</p> <p>事業種別 ハー ト ソフト ・ 事業補助</p> <p>櫛引地域振興計画での位置づけ 基本方針 (3)、(5)</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>○飛躍的に普及拡大しているインターネットは、発信できる情報量が豊富で、即時性や経済性、双方向性といった特性を持っている。特にソーシャルネットワークやキングサービズ (SNS) は、即時性及び経済性に優れており幅広い人々に情報発信が可能となる。</p> <p>○ホームページやパンフレットは形式的であり、具体的な内容が伝わりづらい。</p> <p>○櫛引地域外の人々が櫛引地域のタイムリーな情報について知る機会がほとんどない。</p> <p>○KCTはあるものの櫛引・朝日地域のみでありそれ以外の地域に動画で情報発信はできていない。</p>	<p>イメージ図・写真等</p>
<p>事業目的</p> <p>近年の情報発信の多様化により市民や観光客の情報入手方法はホームページやパンフレットのみだけでなく、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャルネットワークやキングサービズ (SNS) を利用したものが増えている。SNSでは写真を中心とした文字での情報を、YOUTUBEでは動画を活用した情報が発信可能である。これらを利用し、SNS世代である若者を中心に櫛引の日常風景や観光情報を発信する。</p>	<p>期待される効果・特記事項</p> <p>○動画や音声の配信により、視覚的に直接訴えることができる</p> <p>○情報の受け手が24時間いつでも好きなときに情報を入手できる</p> <p>○能動的に情報を探らなくとも、当該アカウントをフォローしていれば、受動的に情報を入力することができる。</p> <p>○場所を限定せず世界中に発信が可能となる。</p> <p>○観光情報のみならず、地域の情報を発信することで櫛引出身者のUターンのかきつけにもなる。</p>
<p>事業内容</p> <p>櫛引地域の情報発信</p> <p>○基本方針策定</p> <p>■SNS (facebook・twitter) の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛引地域アカウント作成 (写真等配信) ・改まった観光情報だけでなく、櫛引地域の日常風景 (Ex.農作物の成長日記、櫛引地域の名物人…) の発信 ・双方向コミュニケーションの確立 (ダイレクトメッセージに対応) <p>■YOUTUBEの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛引チャンネルの作成 ・櫛引地域内外に向けた情報内容 ・動画撮影・編集者は固定せず、さまざまな世代目線で櫛引を紹介 	<p>推進体制</p> <p>○検討体制</p> <p>○事業実施主体 (運営体制) 鶴岡市、KCT</p>

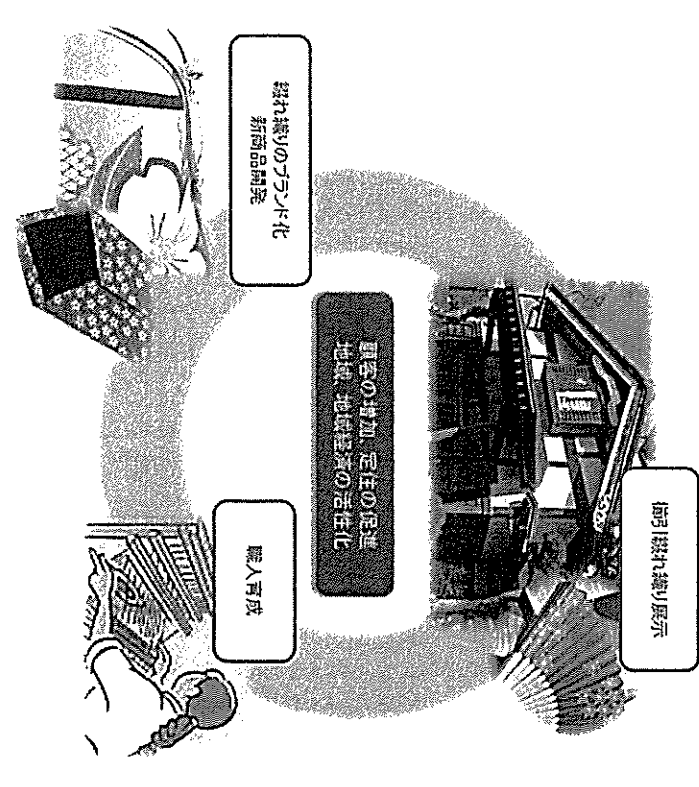
櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.5

担当課 産業建設課

<p>計画 (事業) 名 南部地域広域観光拠点と交通基盤整備</p>	<p>実施年度 H30～H34</p>	<p>事業種別 ハート ソフト 事業補助</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ (背景) 本市観光客数は微増傾向にあるが、加茂水族館(558,800人/H29)、羽黒山(632,300人/H29)の2強となっている。温泉地への宿泊客数も788,800人/年間と減少傾向にあり、広域型の滞在型観光の推進が必要。 (課題) 特に、櫛引地域においては、黒川能王祇会館(2,575人/H29)、丸岡城跡公園(2,033人/H29)、果樹観光園(18,258人/H29)等の高質な観光資源を有するが、そのポテンシャルを生かし切れていない。また観光客の2次交通確保が常に課題となっているが、民間の「庄内交通網」では採算性のため運行していないため、櫛引、朝日等の南部地域での地域主体による2次交通運営が必須となっている。(住民ニーズ) 広域交通幹線網では、県道「たらのきだいたい鶴岡線(外内島～我老林)」及び農免道路「黒川2期」の施工により、東北横断自動車道の朝日IC、鶴岡ICへのアクセスが大幅に向上することで観光客の増大に期待している。(県への要望・調整事項)</p>	<p>イメージ図・写真等</p>	<p>基本方針(1)、(3)</p>
<p>事業目的 鶴岡市の日本遺産である「生まれ変わりの旅」、「サムライゆかりのソルック」による羽黒山80万観光客への観光資源の付加価値として、羽黒山と湯殿山の中継地点にある櫛引地域の果樹と歴史資産の観光資源を提供し、また、金峰山や朝日地区即身仏等の黄金地区、朝日地域との広域観光圏の形成を図ることで、市南部地域での滞在型の着地型観光を発信する。</p>	 <p>(車) 市南部地域の広域観光道路は県道と農免道路の2箇所延伸で大幅改善 (移動) 観光の2次交通確保は地域主体の公共交通機関が不可欠がある</p>	<p>期待される効果・特記事項 (1) 王祇会館・春日神社来訪者数 (H29) 2,575人⇒(H40) 3,000人(20%増) (2) 観光果樹園来訪者 (H29) 18,258人⇒(H40) 24,000人(30%増) (3) 農家民宿利用者 (H29) 3,505人⇒(H40) 4,000人(15%増) 櫛引地域経済効果</p>
<p>事業内容 市南部地域の観光基盤強化のため、フルーツランドを拠点とした観光商品の開発提供と交通基盤の強化を図る。 ○フルーツランド(仮)に市南部広域観光拠点の機能拡張 1)市南部広域連携の観光商品の開発と提供、エージェンツへの売り込み(着地型観光) ○地域主体の2次交通システム(空港・鶴岡駅～市南部観光拠点間の送迎) 2)市スツールバス等を活用した観光客の2次交通輸送システムの開発(空港・鶴岡駅～交通ハブ(フルーツランド)～南部地区観光地)と運営会社の設立(庄内交通では赤字路線ため手を出さない) ○羽黒～櫛引～朝日を繋ぐ「広域観光幹線道路」の整備促進(県要望) 3)県道たらのき代鶴岡線バインパスの延伸整備促進。(外内島～我老林バインパス、鶴羽橋～南回りタツチ L=1,300m(市負担金10%) 4)農免道路(黒川2期地区)の整備促進。(松ヶ岡～黒川 L=960ha、C=291百万円(市負担金10%))</p>	<p>推進体制 ○検討体制 1)交通輸送…庁内関係部課(観光物産課、櫛引産業建設課、朝日庁舎産業建設課) 2)観光開発…プロジェクト会議(市関係課、出羽庄内地域開発デザイン、庄交コーポレーション等) ○事業実施主体(運営体制) 民間会社(フルーツランド運営会社の観光部門が旅客運送業を取得)</p>	



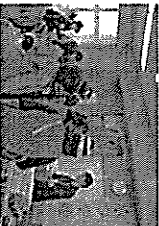

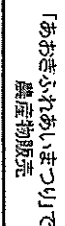

櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.6


担当課 産業建設課

<p>計画 (事業) 名 櫛引綴れ織りブランド化事業 (歴史と観光のまちづくり事業)</p>	<p>実施年度 H30～H34 事業種別 ハート ソフット・事業補助 櫛引地域振興計画での位置づけ 基本方針 (3)、(4)</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ 背景 ・綴れ織りは絹織りからの京都西陣織りの流れを汲み、櫛引地域の家庭内産業として栄え、現在も僅かながら鶴岡地域、櫛引地域にも残存している。 ・絹織物の綴れ織り職人である榎本美芳氏は、H26年度に鶴岡市卓越技能者表彰されている。 ・綴れ織り工場の虚額庵では、歴史ある鶴岡の絹織物がつくられ、世界へ「つるおか絹物語」を発信している。 課題 ・天澤寺は加藤清正公が眠る菩提寺であるとともに、その一角には織物工芸家の遠藤虚額庵の糸塚とともに綴れ織り工場の虚額庵があるが、広く知られていない。 ・伝統工法綴れ織りの活動が限定的であり、日本遺産に登録された鶴岡市のメリックが活きていない。</p>	<p>イメージ図・写真等 </p>
<p>事業目的 「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」というストーリーのもと、櫛引市の絹産業が日本遺産に登録されており、櫛引では絹織物として古くから「櫛引綴れ織り」がある。鶴岡シルク、関川しな織りと合わせ「鶴岡三大織り」として伝承すべきである。 日本遺産に登録されている鶴岡シルクのメリックを活かし、「櫛引綴れ織り」の新たな商品開発・ブランド化を行い、県内外・外国からの新たな顧客の誘致と地域の活性化を図る。</p>	<p>期待される効果・特記事項 ・若年層をターゲットにした顧客の増加 ・綴れ織り商品の販売額増加、販路の拡大、ブランド化 ・地域、地域経済の活性化 ・櫛引地域への移住、定住の促進</p>
<p>事業内容 櫛引綴れ織りについて、日本遺産登録のメリックを活かし、新たな商品開発・ブランド化を図るため、以下の事業を行う。 ○デザインナー等とコラボした綴れ織りのブランド化 (京都西陣等) ・鶴岡三大織：松ヶ岡シルク、関川しな織、櫛引綴れ織り ○虚額庵の改修。綴れ織り商品の展示、販路拡大、職人の育成、産業化 ・櫛引綴れ織りを産業化し西陣と連携した販路開発</p>	<p>推進体制 ○検討体制 櫛引庁舎、天澤寺、虚額庵 ○事業実施主体 (運営体制) 推進協議会 (天澤寺、虚額庵、観光協会) 行政 (国、県、市)、アドバイザー (コンサル)、デザイナー</p>

櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.7

担当課 産業建設課

<p>計画（事業）名 都市農村交流促進事業</p>		<p>実施年度 H30～</p>	<p>事業種別 ハード ソフト 事業補助</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>30年近くにわたる都市農村交流は、都市部に鶴岡フアンを多く輩出しており、今後も観光振興やグリーン・ツーリズムの推進、農産物の販路拡大など、多面的な活性化を一層図っていくために、よりステツプアップした事業を実施していくことが必要である。</p>		<p>櫛引地域振興計画での位置づけ</p>	
<p>事業目的</p> <p>JA庄内たがわ青年部櫛引支部が昭和61年から取り組んできた横浜市立青木小学校との交流は、農業への理解促進をはじめ、櫛引南小学校との相互交流や地域農産物の販売、学校給食用「つや姫」販売などにつながってきた。また、修学旅行の受け入れは、民泊や農業体験、学校間交流など地域全体での取組みに発展している。JA青年部の取り組みを支援することにより、交流による活性化や都市部での本市理解者の獲得、地域農産物の販路拡大など多面的な活性化に資する。</p>		<p>イメージ図・写真等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>青木小学校田での 稲作指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>青木小修学旅行受入 農業体験</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>つよおかフエンの連帯 農産物の販路拡大 交流ゲストハウス整備による 交流人口の拡大</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【交流学校ゲストハウス】 首都圏の小中学校・大学等の農 業体験受入での利用（交流の基 礎）グリーンツーリズムでの利 用を目的に整備</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>「あおきふれあいまつり」での 農産物販売</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>青木小修学旅行受入れ 学校間交流</p> </div> </div>	
<p>事業内容</p> <p>○交流人口拡大の推進（首都圏の修学旅行や大学生の農業体験受入の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察研修 ・農家民宿グループ「黒川能の里の会」への研修支援 ・空き家を活用した交流学校ゲストハウスの整備 <p>○体験型観光農園の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家カフェ実践者による講演、視察研修、農家カフェの整備 <p>○農産物等販路拡大支援事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作出前授業、あおきふれあいまつり参加 ・修学旅行受け入れ（ホームステイ、農業体験、学校間交流） 		<p>期待される効果・特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農産物のPRと市場動向把握 ・地域農産物の販路拡大 ・鶴岡フエンの獲得 ・地域農産物の収益力の向上と経営意識の向上 ・農業自然体験型都市農村交流による交流人口の拡大 <p>推進体制</p> <p>○事業実施主体（運営体制）</p> <p>農業体験受け入れ・・・修学旅行受入実行委員会 出前授業、産直交流・・・JA庄内たがわ青年部櫛引支部</p>	

計画 (事業) 名		丸岡城跡環境整備事業	
背景・課題・住民ニーズ			
<p>○丸岡城跡史跡公園は、史跡復元の面的整備を平成21年度末に完了し、続けて、平成28年度にはガイダンス施設として武家住宅旧日向家を復元整備して、以降、2,000人を超える観光客を迎えている。</p> <p>○マイクロバス等での来訪やイベント開催時には、市道が狭く進入できなかつたり、駐車台数が少なく利活用には支障をきたしていることから新たな駐車場整備を地元自治会や顕彰団体から強く求められている。</p> <p>○マイクロバス以上の大型車がガイダンス施設に進入できるよう市道の拡幅を要望されているが、事業費が高額になるため、駐車場整備で支障事項の解決を図るもの。</p>			
事業目的			
<p>丸岡城跡史跡公園を会場としたイベント開催時には、市道が狭くマイクロバスが進入できなかったり、現駐車場が狭いため来訪に支障をきたしている。</p> <p>新たに駐車場を整備し、マイクロバス等での来訪やイベント開催時の駐車容量に於いて、地域資源の更なる利活用を図りながら、観光振興、交流人口の拡大、地域の活性化に資するとともに、地域の顕彰活動を通じて地域コミュニティの充実を図る。</p>			
事業内容			
<p>マイクロバス等での来訪やイベント開催時の駐車に支障をきたしていることから、史跡公園周辺に駐車場を整備するもの。</p> <p>○用地買収 [550 m²]</p> <p>○実施設計</p> <p>○駐車場整備工事 [乗用車20台、マイクロバス2台]</p>			
実施年度	H31～H32	事業種別	ハードソフト・事業補助
榊引地域振興計画での位置づけ		基本方針 (4)、(5)	
イメージ図・写真等			
期待される効果・特記事項			
<p>歴史と文化で魅力あふれるまちづくり</p> <p>○文化遺産を資源とする観光振興や交流人口の拡大は、将来とも高い効果が期待できるところであり、丸岡城跡史跡公園の観光客受入れにかかる環境整備を行うことで、早期の活性化と地域振興に結び付けることができる。</p> <p>○歴史と文化を維持することは、地域コミュニティの維持にもつながることであり、観光客の増加により、将来に向けた顕彰活動や地域振興の力とすることができる。</p>			
推進体制			
<p>○市直営</p> <p>榊引庁舎総務企画課が所管し、管理・運営については業務委託する。</p>			

櫛引|地域まちづくり未来計画 事業 No.9

担当課 総務企画課

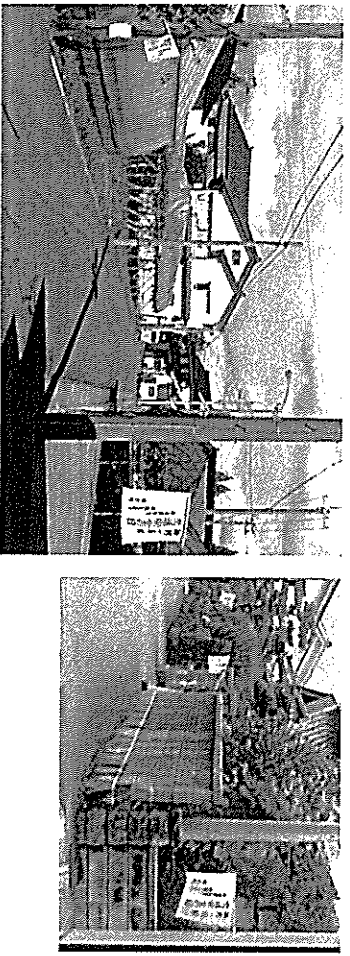
計画（事業）名		「地域の遊び場」整備事業（検討事業）	
背景・課題・住民ニーズ 子育て世代やまちづくり塾メンバー、地域振興懇談会委員など多方面より、地域に大型遊具のある遊び場が無いと意見が出されている。			
事業目的		子育てにかかると環境整備の一環として、安全に遊べる場・休日に親子でふれ合える場を整備し、子どもの健全育成に寄与するとともに、子育て世代や祖父母世代が集い交流することにより地域コミュニティの醸成につなげる	
事業内容		<p>事業内容</p> <p>○場所・機能の検討 検討する場を設定し、既存施設内への設置も含めて整備場所を検討、土地形状等に即した遊具や広場等の機能・内容を協議し整備につなげる</p> <p>○想定される事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存施設内に設置、または併設する場合 <ul style="list-style-type: none"> ・設計、大型・コンビネーション遊具等の整備 2. 新規広場整備、既存施設の機能変更の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計（コンサル）/実設計 ・巨大遊具・コンビネーション遊具等整備 ・築山、植樹 ・遊び広場兼イベント広場（人口芝または天然芝） ・トイレ、水飲み場 ・駐車場 （・用地買収） 	
実施年度	H31～H33	事業種別	ハード ソフト 事業補助
櫛引 地域振興計画での位置づけ		基本方針（5）	
イメージ図・写真等			
期待される効果・特記事項			
<p>○子育て世代の満足度が上がり、住みよい環境を向上させることができる。</p> <p>○櫛引 地域内の施設と組み合わせた活用など、相乗した効果が得られる。</p> <p>○子育て環境だけでなく、親や祖父母と世代間交流によるコミュニティの醸成が図られる。</p> <p>○親子向けのイベントの開催などを企画し地域活性化につなげる</p>			
推進体制			
<p>○検討体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所や機能を含め、他未来事業の進捗状況も踏まえて今後検討をする。 ・他未来事業の施設での整備となれば、対象事業の事業費に盛り込むこととする（事業スケジュールも合わせる） 			

計画（事業）名		伝統芸能アーカイブ事業	
背景・課題・住民ニーズ			
<p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年の間、連続と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で、座加入の戸数および能役者が年々減少傾向にある。</p> <p>また、黒川能の囃子方は譜面ではなく口承による指導、稽古で、一子相伝に近い特有の伝承方法であることから、途絶えかけた演目もあれば、正確に継承していくのが難しい。</p> <p>独特の謡や舞、所作、囃子が特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化により、人材の確保および充分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>これまで上演された演目や演奏が収録されているものがあるが、VHSやMD等媒体が古いため再生機器もなく、活用されていない状況である。</p>			
事業目的			
<p>既存映像のデジタル化、加えて囃子方等の演奏を撮影収録し、デジタル音源として記録保存することで、伝統芸能の継承を図る。</p> <p>また、記録したDVD、CDを両座の能役者や、学校関係、一般住民等に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に活用する。</p>			
事業内容			
<p>○黒川能のVHS映像、謡等のMD音源をデジタル化（DVD化、CD化）し、稽古用、観賞用として整備し、活用できる体制を構築する。</p> <p>（VHS130本、MD50本）</p> <p>○既存の記録に加え、新たに舞、狂言、謡、囃子方の鼓、笛および太鼓の演奏を撮影収録し、デジタル音源として記録保存する。</p> <p>（1回3曲×10回収録（上座・下座各5回）×3か年＝90曲）</p>			
実施年度	H31～H33	事業種別	ハード <u>ソフト</u> 事業補助
櫛引地域振興計画での位置づけ		基本方針（4）	
イメージ図・写真等			
期待される効果・特記事項			
<p>これまでのVHS映像をデジタル化することで記録の消失を防ぎ、平成25～26年度に整備した能面と装束の写真図譜データベースとともに、将来的な保存・伝承活動に寄与する。</p> <p>また、記録したDVDの貸出を行い、稽古や伝統芸能の学習に活用する。</p>			
推進体制			
<p>○検討体制</p> <p>櫛引庁舎総務企画課、黒川能保存会、上座下座、KCT</p> <p>○実施主体</p> <p>作業は外部委託</p>			

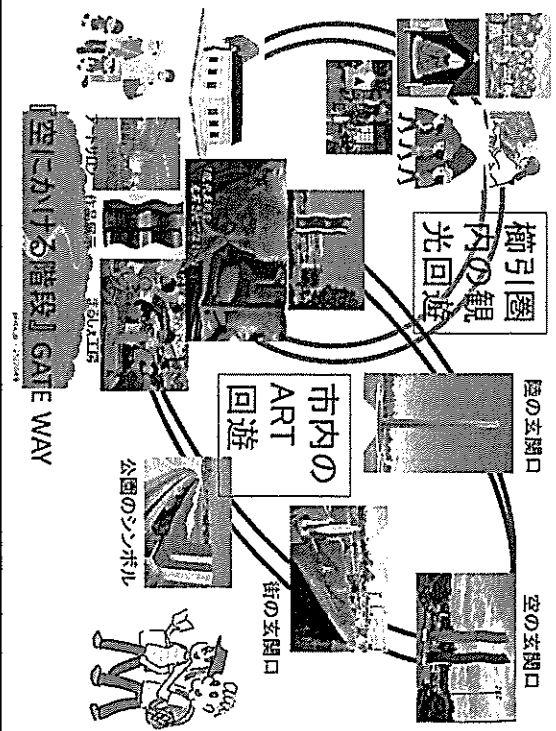
橿引地域まちづくり未来計画 事業 No. 1 1

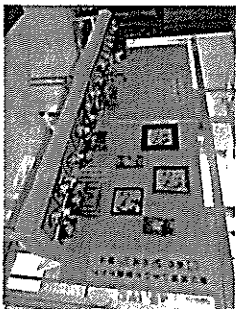
担当課 総務企画課

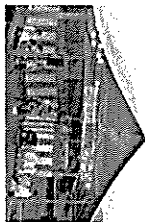
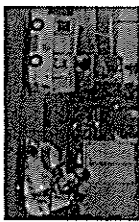
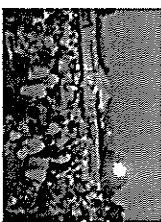

計画（事業）名	デマンドバス運行事業	
	実施年度	H31～
背景・課題・住民ニーズ	実施年度	H31～
	事業種別	ハードソフト・事業補助
事業目的	橿引地域振興計画での位置づけ	基本方針（5）、（3）
	イメージ図・写真等	
事業内容	イメーシ図・写真等	
	期待される効果・特記事項	前日まで連絡のあった利用者の自宅まで送迎する
事業内容	期待される効果・特記事項	前日まで連絡のあった利用者の自宅まで送迎する
	推進体制	○検討体制 デマンドバス等新交通システムの調査業務を委託し有識者の意見を参考にし、懇談会等で住民の意見を聞きながら新システムを検討する。 ○事業実施主体（運営体制） 市が入札により旅客運送事業者に委託する。

<p>計画 (事業) 名 地域独自の交通安全啓発</p>	<p>実施年度 H31 事業種別 ハード ソフト・事業補助 櫛引地域振興計画での位置づけ 基本方針(5)</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ 1984年の事故統計によると、櫛引町居住者が起こした交通事故は人口1万人当たりの発生件数が58.3件と県平均33.4件を大きく上回り、県内の最悪記録となった。これをきっかけに1985年から始まったのが、毎月一日を「町交通安全の日」と定め、町で配布する黄色い小旗を家の入口や門柱に掲げ、町民はもとより来町者や通過車両にも交通安全を訴える運動である。 この活動は櫛引地域に深く浸透しており、鶴岡市櫛引地域交通安全母の会が実施する毎月1日朝の立哨指導等と合わせ、地域独自の運動として現在まで継続して行われてきた。 櫛引地域は交通量の多い幹線道路もあり、今年に入ってから国道112号線において交通死亡事故も発生している。旗に関しては最初の全戸配布から30年以上経過しており、各地区からは旗の老朽化や紛失の声も多数寄せられているほか、配布後に地域に住み始めた家庭には配布されていない、地区によって取り組み姿勢に差があるなどの課題がある。</p>	<p>イメージ図・写真等</p> 
<p>事業目的 交通事故のない安全で安心な町を実現するため、新たに旗を作成・配布するとともに広報や音声告知放送などで改めて活動の趣旨を説明することで、櫛引地域の住民や通過車両に対して交通安全意識を醸成する。</p>	<p>期待される効果・特記事項 ・地域住民の交通安全への意識の高まり⇒櫛引地域での交通事故の減少</p>
<p>事業内容 ・新たな「交通安全の日」の旗を作成し、櫛引地域に全戸配布(地区へとりまめを依頼)する。 ・次年度以降は、補充・交換分を庁舎に保管し、問い合わせに対応する。 ・啓発チラシ全戸配布 ・毎月音声告知放送で啓発</p>	<p>推進体制 ○事業実施主体 (運営体制) 鶴岡市</p>

<p>計画 (事業) 名 地域コミュニティ活性化事業</p>	<p>実施年度 H31～H32 事業種別 ハードソフト・事業補助 鶴引地域振興計画での位置づけ 基本方針 (5)</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ 鶴引地域では、従来より地域コミュニティは単位自治組織を中心として活動が行われており、小学校区単位の地区公民館が設置されているため、役員体制や事務体制が追いつかず地域での支え合いなどのニーズに答えきれていない状況にあり、今後この傾向は強まっていくと予想される。また、地域の連帯感や郷土愛を支えてきた祭りや伝統芸能の維持保存が大変になってきている。こうした課題を解決する地域運営の仕組みの変化が求められており、このまま看過すればいずれ立ち行かなくなるとは分かっていながらも、短期間で交替することの多い自治会の役員にとって、これらの対応が先送りになっている現状にある。</p>	<p>イメージ図・写真等 本市におけるコミュニティ施策の体系 </p>
<p>事業目的 単位自治組織の機能補完や、単独では取り組むことが難しい福祉や防災といった課題の解決、また担い手の育成や活性化策について実態を捉えたうえで行政として支援していく。 具体的には、地域運営や伝統芸能等の実態を調査把握したうえで、地域と一緒に進んで地域コミュニティ同士の協力・連携体制の構築や、広域コミュニティ組織設立の継続検討に取り組みとともに、地域ビジョンの策定を支援する。</p>	<p>期待される効果・特記事項 ○社会情勢の変化に対応した地域コミュニティの維持、機能強化 ○地域コミュニティ同士の協力・連携体制の構築 ○伝統芸能保存会の会員の増加 ○広域コミュニティ組織設立に向けた住民意識の醸成</p>
<p>事業内容 通年で集落支援員(嘱託職員)1名を配置し、以下の事業を実施する。 ①地域コミュニティ実態調査の実施 ②ワークショップ・研修会の開催 ③自治会間、伝統芸能保存会同士の交流事業の開催 ④伝統芸能交流イベント開催と伝承活動の支援 ⑤鶴引地域のコミュニティ維持・活性化のための計画策定 ⑥地域ビジョン策定に向けた自治会への支援</p>	<p>推進体制 ○検討体制 庁舎職員、集落活動支援員 ○事業実施主体 (運営体制) 市直接業務</p>

<p>計画 (事業) 名 「空にかける階段」 information booth 整備事業</p>	<p>実施年度 H31～H33 事業種別 ハードソフト 事業補助 鶴引地域振興計画での位置づけ 基本方針 (5)</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ (背景) 鶴引地域出身の世界的石造彫刻家「富樫実氏」(名誉市民)の「空にかける階段シリーズ」は、鶴引地域の富樫ロード(仮称)や鶴引庁舎を始め、市内では庄内空港、山形自動車道鶴岡IC、美咲町開発地、開運橋、千歳橋があり、国内外に多数設置されており、その芸術的評価は京都市文化功労賞、紺綬褒章等を受賞するなど権威の高いものである。現在、氏の木製試作品(ミニチュア)は、鶴引庁舎に数多く展示され、公共施設や民間企業に貸し出しを行い、気軽に目にし触れられる展示を行っている。 (課題) 氏の作品については鶴引地域の各所に展示されているが、氏の人物像、功績、作品思想等の紹介が薄く地域住民より認知されていないという課題がある。 (住民ニーズ) 鶴引観光協会をはじめ地域の富樫支援者では、氏の功績を広く知らしめ後世に伝え、また鶴引地域の芸術的シンボルとして「空にかける階段」を位置づけ、黒川龍、丸岡城跡の観光資源に繋げたいという考えが以前よりある。</p>	<p>イメージ図・写真等 </p>
<p>事業目的 世界的石造彫刻家である富樫実氏(名誉市民)の「空にかける階段」作品を紹介するブースを拠点として整備し、市内各所に点在する氏の作品を親で回遊できる仕組みのゲートウェイ機能として多くの内外者からの来訪を誘引し、また鶴引地域が目玉事業である「こしやつてマルシェ」工房を兼ね子ども芸術学校を実施することで鶴引地域のまちづくり、景観形成に資する</p>	<p>期待される効果・特記事項 ①芸術のあるまちづくりの推進 富樫氏の「空にかける階段」作品は世界的芸術作品であり国内外にファンは多い。拠点整備により鶴引をゲートウェイとした芸術とまちづくりをマッチングし市内を回遊できる仕組みづくりにより地域活性化に資する ②地元子供の芸術性感性の醸成 郷土出身の芸術家の偉業を広く周知し学習事業を実施することで、地元児童・生徒子供の芸術的感性を高め情報教育の向上を図る ③こしやつてマルシェ芸術学校による地域活性化 鶴引地域の目玉事業である「こしやつてマルシェ」のクラフト作家に工房提供することで、観光客の増大や子ども芸術学校により地域活性化を資する</p>
<p>事業内容 (事業内容) 富樫氏の作品を紹介するブースの整備。鶴引地域の既存施設内に改修整備し、ここを拠点を鶴引地域、市内にある作品群を観光、回遊できる仕組みをつくり、さらに芸術のあるまちづくりとして景観形成に繋げていくものです。 (施設名称) 「空にかける階段ゲートウェイ」(総合博物館施設) (設置場所) 鶴引生涯学習センター又は鶴引スボーツセンター(柏戸記念館)内の室内改修(施設コンセプト)氏の作品に囲まれ、氏が愛する音楽、飲み物(ワイン等)を楽しむながら鑑賞、集えるサロン (展示内容) 単なる作品展示に止まらず、氏のシリーズ作品の根底にある仏教思想の輪廻の作品思想や氏の人物像、系譜、触れて楽しめる作品展示等の総合展示施設として質の高い展示サロンとする ・木製試作品、書、仏像、作品デジタルコンテンツ、愛好ワイン等 ・こしやつてマルシェクラフト工房(子供芸術学校(東北芸術工科大学連携)) (運営方法) ・平日: 無人(防犯カメラ設置) ・休日: 運営組織常勤(民間事業者)</p>	<p>推進体制 ○事業実施主体(公設公営(一部民間委託)) (運営主体) 鶴岡市、一部委託プロポーザル(飲食許可による民間事業者募集) (想定:鶴引観光協会、こしやつてマルシェ、地域内福祉団体、地元住民会婦人会等) (設置主体) 鶴岡市(公設公営)</p>

計画 (事業) 名		いきいき健康活動拠点運営事業	
背景・課題・住民ニーズ			
<p>縮引地域いきいき健康クラブ運営事業は、地区公民館等の施設を使用しながら、概ね65歳以上の高齢者を対象に、語らいや交流、運動や健康づくりなどを通じて、閉じこもりや認知症などの予防と要介護認定を受けにくい生活に結びつけることを目的として、縮引地域の多くの地区で長年実施され定着している介護予防事業であったが、介護保険法の改正に伴い本事業が平成29年度をもって終了し、平成30年度以降の介護予防事業は長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」に移行されることとなった。移行後の介護予防事業については、運動・体操を取り入れた上で年間を通じて定期的に継続して開催する必要があることから、新しい介護予防事業に移行しない地区が多く、こうした地区では、高齢者同士の交流や語らいなどの機会を失うこととなった。また、移行した地区であっても、取り組み内容が運動・体操に固定化して多様な活動がとりにくいことから次年度以降の取り組みを再考したいとの声が出ている。こうした現状を踏まえ、高齢者ができるだけ要介護認定を受けにくく、いきいきとした生活を送るための取り組みとして、現行の介護予防事業をベースとして、介護予防とあわせて閉じこもりや認知症などの予防につながる事業の取組が求められている。</p>			
事業目的			
<p>縮引地域で平成6年度から継続実施されて来た介護予防事業（いきいき健康クラブ運営事業）の終了に伴い、衰退傾向にある高齢者の健康維持及び生きがいづくりとしての拠点整備を再構築することで地域活性化に資する。</p>			
事業内容			
<p>長寿介護課所管の「地域介護予防活動支援事業」に取り組んでいる団体の属する地区に外し、介護予防の活動日や地区の行事等に併せて地区住民の語らいや交流活動、創作（ものづくり）活動、文化活動あることにより、各地区における高齢者の総合的な健康維持と生きがいづくりを促進することを目指す。「地域介護予防活動支援事業」に継続して取り組む地区及び新たに取り組む地区の増加に期待できる。</p>			
実施年度 H31～			
実施年度		事業種別	
縮引地域振興計画での位置づけ		ハードソフト・事業補助	
イメージ図・写真等			
<p>団体が実施</p> <p>運動・体操（60分）と任意の活動（30分） （介護予防の取り組み）</p> <p>+</p> <p>創作活動・レクレーション・芸術・研修等を取り入れた閉じこもり等予防 （こころの健康増進・いきいきづくりの取り組み）</p> <p>↓</p> <p>高齢者の総合的な健康維持と生きがいづくりに つながる活動拠点の運営</p>			
地区が実施			
			
期待される効果・特記事項			
<p>○長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」との連携により、高齢者の介護予防活動の推進のみならず、地区在住の高齢者の閉じこもりや認知症予防、あるいは会員同士の交流や各種研修を通じて、高齢者の生きがいづくりと心身の総合的な健康維持に資することを目指す。</p> <p>○「地域介護予防活動支援事業」に継続して取り組む地区及び新たに取り組む地区の増加に期待できる。</p>			
推進体制			
検討体制		鶴岡市縮引庁舎市民福祉課	
事業実施主体		（運営体制）	
「地域介護予防活動支援事業」に取り組んでいる団体の属する地区			

計画（事業）名	くしびき夏のイベント推進事業	
	実施年度	H30～
背景・課題・住民ニーズ	少子高齢化の進行や人口減少、就業構造の変化に伴い、地域の連帯感の希薄化が懸念されていることから、地域住民や関係団体が連携協力して賑わいを創出し、地域の活力を維持して行く取組みが求められている。 黒川能野外能楽「水焔の能」は、旧櫛引町誕生30周年の記念事業の一環で開催したイベントで回数を重ねて櫛引地域における夏の風物詩として定着しているが、鑑賞者の減少やイベントの運営体制づくりなどが課題となっている。	
事業目的	櫛引地域における夏のイベントとして黒川能野外能楽「水焔の能」、農工商観が連携した「くしびき夏まつり」など、地域の特性を生かしながら、地域の魅力を高めるとともに、交流人口の拡大による人・もの・情報の交流をなお一層推進し、地域の活性化と一体感の醸成を図る。	
事業内容	7月最終土曜日に開催している「野外能楽 水焔の能」と連日日程となる「くしびき夏まつり」を夏の二大イベントとして開催する。「くしびき夏まつり」については開始から7年が経過し、櫛引地区最大の夏のイベントに定着してきており、今後も継続して開催していくことを実行委員会において確認している。平成30年度は、これまででの経験やアイデアを結集して、老若男女が楽しく集い、さらに賑わいを創出するための事業となるよう支援を行う。開催にあたっては商工団体、農業団体、観光団体等による実行委員会を組織し、市が共催する形で運営補助金の拠出と人的支援を行う。 ○商業者等による展示販売、農業団体・産直組織による特産物や姉妹都市の特産品の紹介販売 ○子ども向けコーナーの設置（パルーンアート、バッチリカー、緑日コーナー） ○ステージアトラクションの実施（伝統芸能の発表、歌謡ショー）	
イメージ図・写真等	くしびき夏まつり   <p>伝統芸能の発表部門</p> <p>賑わい交流部門</p> <p>水焔の能</p>   <p>ステージ部門</p> <p>黒川能 能二番と狂言一番、東小児童の舞囃子</p>	
期待される効果・特記事項	地域住民や地元工業団地等へ在勤者などが一堂に集う櫛引地域あげでのイベントであり、この夏まつりへの参画を通じ、地域住民の連帯意識と地域活力の醸成、賑わいの創出が期待される。また、各地域の伝統文化発表の場として継承の契機としている。	
推進体制	○事業実施主体（運営体制） くしびき夏まつり実行委員会 （JA庄内たがわ櫛引支所、出羽商工会櫛引支所、櫛引観光協会、櫛引庁舎産業建設課）	

<p>計画 (事業) 名 黒川能保存伝承支援事業</p>		実施年度 H30～	事業種別 ハード ソフト 事業補助
<p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>黒川能は、黒川地区の2つの能壁により500有余年の間、連続と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で座加入の戸数および能役者、囃子方が年々減少傾向にある。</p> <p>また、独特の謡や舞、所作、囃子、着付けが特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化、価値観の多様化、能役者の高齢化等により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなってきたおり、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>そのため、若い世代に伝統芸能に誇りを持ってもらう活動とともに、文化資源を後世に継承していく仕組みづくりと、旅行者など黒川能の理解者の掘り起こしが必要となる。</p> <p>指定管理者である黒川能保存会は、主な収入を寄附金と公演収入としているが、近年は寄附金も減少傾向にあり、厳しい財政状況となっている。</p>		<p>櫛引地域振興計画での位置づけ</p> <p>基本方針(4)、(5)</p>	<p>イメージ図・写真等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【保存伝承の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 ・能役者の高齢化 ・生活環境、価値観の変化 等々 </div> <p>・人的交流</p> <p>・理解促進</p> <p>・後継者育成</p> <p>・事業の円滑な運営 等々</p> <p>【継承の仕組みづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究会の実施 ○後継者育成事業 ○黒川能保存会運営補助
<p>事業目的</p> <p>近年の少子高齢化、生活環境や価値観の多様化により、人材の確保等が難しくなってきたおり、保存伝承が危ぶまれているため、地元櫛引東小学校の児童に対し現役能役者による直接指導を行い、継承の意識付けをし、後継者を育成する。</p> <p>体験用能楽器(30年度整備)と能装束を整備するなど、王祇会館を「見る」施設から「体験できる」施設にするとともに、春日神社との連携や体験メニューの開発をすすめ、黒川能への理解促進と来訪者の増加を図る。</p> <p>また、ふるさと寄付金の返礼品として、体験型返礼品のメニューに取り入れる。黒川能保存会の各種事業および管理運営体制を支援することで、継続的な保存伝承に寄与する。</p>		<p>期待される効果・特記事項</p> <p>黒川能への関心、文化的価値の理解が深まり、能をとおした人的交流が広がり、地域の活性化が図られるとともに、保存伝承の機運の醸成が図られる。</p> <p>後継者不足が危惧されているなか、幼い頃から仕舞練習や発表体験をとおし、故郷の伝統芸能に対する愛着と誇りが育まれ、次世代の能承継者が期待できる。また、伝統芸能の保存伝承および観光の拠点施設である王祇会館の組織運営を支援することで、業務体制が整えられ、施設の適切な管理、黒川能保存会による各種事業の円滑な運営が長期的に可能となる。</p>	
<p>事業内容</p> <p>公益財団法人黒川能保存会が行う下記事業に対し補助を行い支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黒川能保存伝習研究会 ○黒川能に造詣の深い識見者の講演会や、行事食アレンジメントの検討、活用等。 ○後継者育成事業 ○現役能役者による演能および囃子方の指導と水焔の能等発表発表機会の創出。 ○王祇会館体験用装束整備事業(平成31年度) ○入館者の体験用装束の整備。 ○30年度に整備した体験用能楽器とあわせ、体験メニューを提供。 ○黒川能保存会運営補助 ○黒川能保存会の運営事務全般の補助 		<p>推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体(運営体制) 公益財団法人黒川能保存会 	

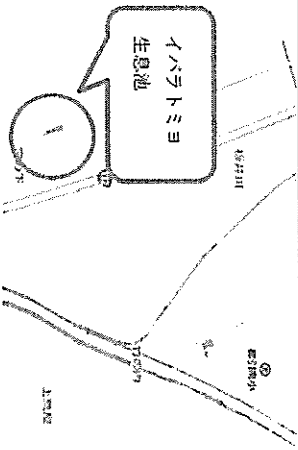



計画（事業）名 能楽青年交流事業	実施年度 H30～		事業種別 ハード ソフト 事業補助
	梛引地域振興計画での位置づけ		基本方針（2）、（4）
背景・課題・住民ニーズ	イメージ図・写真等		
現在、首都圏の大学の能楽サークルを対象に、能楽青年交流事業により、能楽合宿、地元若手能役者との交流を行っているが、その時限りの関わりとなっている。 せつかく黒川に来てもらっても、短期間のため、黒川能と農業、地元住民の関わり、食文化等について、理解や体験があまり出来ずに終了してしまっている。 能楽合宿に参加したことをきっかけにリーダーとなってもらい、黒川能への理解促進、農業や食文化等の体験をおし、長期的な交流へと発展させたい。	<div style="text-align: center;"> <p>大学能楽サークル等の合宿 誘致・受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験 ・食文化 ・住民生活 ・交流会、イベント参加等 【学び・理解促進・交流】 <p>「能楽合宿地 黒川」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家民宿 ・王祇会館 ・黒川能伝習館等 【利用促進・観光振興】 </div>		
事業目的 現在取り組んでいる能楽青年交流事業は、首都圏の大学生を対象に、夏季休暇を利用した能楽合宿を行っているが、その時限りの交流になっているため、この事業を通年に拡大し、1年を通した能と農、住民生活の関わりを学んでもらい、能の理解促進、交流の継続につなげる。 また、黒川能伝習館、王祇会館、農家民宿の利用促進、観光振興を図り、「能楽合宿地」という分野を確立する。 首都圏の大学生や青年のみならず、地元のサークル等にも黒川能伝習館の能舞台を広く貸し出し、宿泊場所には農家民宿を斡旋する等既存施設の利活用、交流人口の増大を図る。	期待される効果・特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な交流および交流人口の増加 ・王祇会館、黒川能伝習館、農家民宿等の利用促進 ・行事食や郷土料理等の食文化の発信 ・農業体験による農業理解 		
事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や青年層の能楽サークルを対象とした能楽合宿の誘致 ・地元の若手能役者や地元住民との交流 ・能楽合宿に参加した学生の「水焰の能」への出演依頼 ・地元農家での農業体験 ・王祇祭や颯燭能の観能またはボランティア ・地元サークル等への黒川能伝習館の能舞台の貸館や農家民宿の斡旋 	推進体制 ○事業実施主体（運営体制） 黒川能保存会		

櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.1 9

担当課 総務企画課

計画（事業）名	くしびき若者未来創造事業		
	実施年度	H30～H32	事業種別
背景・課題・住民ニーズ	市町村合併から13年を経過したが、旧町村の住民からは予算が中央に集中して、周辺地域については活力が失われ、元気が無くなっているとの声も聞かれている。 また、地域のリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、まちづくりをリードしていける若い人材を発掘・育成することが急務となっている。 地域の特性を活かして策定される未来事業計画には、将来を展望するといった観点からも、地域の若者たちの意見をなるべく多く集約する必要がある。		
事業目的	<p>協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、櫛引地域の若者によるワークショップや交流を通じて、その成果をまちづくり未来事業計画の策定に反映させるとともに、地域のまちづくりを牽引していけるような人材の育成に寄与する。</p>		
事業内容	<p>櫛引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者によるワークショップ等の事業を実施する。 ・ワークショップ（体験型講座） 2回（5月・7月） ・先進地視察 1回（9月） ・グループ討論 随時 ・成果発表交流会 1回（11月） ※次年度に向けた組織化の準備および組織として実施することを想定した事業の提案も行う。</p>		
期待される効果・特記事項	<p>まちづくり未来事業計画策定にあたり、多くの若者の意見を取り入れ、反映させることができる。 また、事業をとおして将来のまちづくりを担う人材の育成や、それぞれの組織が横断的に交流することにより、計画されたまちづくり事業への参画など地域貢献に資する融合グループの組織化も期待する。</p>		
推進体制	<p>○検討体制 鶴岡市櫛引庁舎 ○事業実施主体（運営体制） 鶴岡市櫛引庁舎（組織化後は団体助成に移行）</p>		
イメージ図・写真等			

<p>計画（事業）名 希少淡水魚保存事業</p>	<p>実施年度 H30～</p> <p>事業種別 ハード <u>ソフト</u> ・事業補助</p> <p>櫛引地域振興計画での位置づけ 基本方針（5）</p>
<p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>希少淡水魚イバラトミヨの保存は、櫛引町時代の平成6年から継続しているものである。 当該イバラトミヨの生息池がある板井川地区では、平成20年に地元有志により「イバラトミヨを守る会」が設立され、地域ぐるみで希少淡水魚の保全に取り組んでいる。 また、山形県では、レッドリストを改定し、当該イバラトミヨは準絶滅危惧種から絶滅危惧IB類に変更されている。 以上のことから、希少種イバラトミヨの保全を継続する必要がある。</p>	<p>イメージ図・写真等</p>  
<p>事業目的</p> <p>絶滅危惧種である希少淡水魚（イバラトミヨ）の種の保存を図るとともに、地元組織による管理を通じ生態系保全や自然環境保護の意識高揚、地域コミュニティの醸成を図る。</p>	<p>期待される効果・特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源である希少淡水魚を後世に残し、生態系の保全が図られる。 ・「イバラトミヨを守る会」など地域ぐるみの活動により、地域コミュニティの醸成が図られる。 ・地域住民の生態系保全や自然環境保護の意識を高揚することで、地域の環境美化と住みよいまちづくりが図られる。 ・市民憲章で唱える「自然を尊び、環境をととのえ、美しいまちにしよう」の具体的で積極的な推進が図られる。
<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イバラトミヨ生息池借上 ・ポンプ設置用地借上 ・地下水汲み上げポンプの電気料負担 ・地元等と連携した環境学習会の開催 ・公共施設でイバラトミヨを展示するとともに学校等と連携した活動の実施 	<p>推進体制</p> <p>○検討体制 鶴岡市、板井川地区イバラトミヨを守る会</p> <p>○事業実施主体（運営体制）</p> <p>市が生息地及びポンプ設置用地の借上料とポンプ電気料を負担。 板井川地区イバラトミヨを守る会が施設の維持管理を行う。</p>

櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No. 2 1

担当課 総務企画課

計画（事業）名	花いっぱい運動	
	実施年度	H30～
背景・課題・住民ニーズ	櫛引地域振興計画での位置づけ	イメージ図・写真等
	事業種別	ハード ソフト・事業補助
事業目的	基本方針（5）	
	<p>・櫛引町の主導により始まった運動であり経費は全て町の予算から支出していたが、新市になり団体への補助金に切り替わったため地区負担金や賛助会費も収入に充てながら活動している。</p> <p>・国道112号線、通称「サルビアロード」は、歩道植樹帯の設置によって交通事故を低減させる役割を果たすとともに、通行者に心のやすらぎを与えている。</p> <p>・この運動はこれまで多くの住民の努力や国土交通省からの支援、事業所等の協力により支えられてきたものであり、地域全体で大切に育ててきた非常に価値のある運動である。今後も継続していくためには行政の支援が必要不可欠である。</p> <p>・課題として、高齢化の進展やコミュニティ意識の希薄化などにより、ボランティアに頼る植栽や肥培管理が難しい状況になっている。また、国道植栽にボランティア協力をいただいていた鶴岡南高校山添校が平成33年度をもって閉校されることにより、作業協力者の大幅な減少が懸念される。</p> <p>・花いっぱい運動を拡大していくために、地区の管理作業の省力化を図りながら、賛助会員やボランティア等の運動を支える人を増やしていく必要がある。</p>	
事業内容	<p>櫛引地域で地域住民参加型で継続されてきた、町の花サルビアの植栽による「花いっぱい運動」を、地域の特色あるまちづくりとしてさらに推進を図り、幅広い年代が参加するコミュニティ活動として位置づけながら、住民が花に親しみを感じながら、やすらぎと住みやすさを実感できる環境づくりを目指す。</p>	
	<p>期待される効果・特記事項</p> <p>・多世代の交流によるコミュニティの再構築</p> <p>・環境美化の推進によるやすらぎのある住みやすいまちづくりへの寄与</p> <p>・市民憲章の具体的な積極的な推進</p>	
事業内容	<p>【活動（支援）内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20地区の参加による花いっぱい運動とコンクールの実施 ・国道112号四車線区間へのサルビア植栽と肥培管理 ・運動を継続するために必要となる新たな方策の検討 	
	<p>【継続事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道112号線サルビア植栽事業 ・櫛引地域花いっぱいコンクール ・新たな品種の試栽栽培(429～) <p>+</p> <p>【新たな取り組みの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花づくり講習会の開催 ・花サボーターの募集 ・灌水コミュニティの購入助成 など <p>花いっぱい運動の継続により明るく住みやすい地域へ</p>	
<p>○検討体制</p> <p>櫛引花と緑の会</p> <p>○事業実施主体（運営体制）</p> <p>櫛引花と緑の会</p>		